

2025年3月6日

都道府県庁 私学事務主管・義務教育・スポーツ振興部門
都道府県 教育委員会
市区町村 教育委員会
都道府県 スポーツ協会、体育協会
日本スポーツ協会加盟団体
ご担当者各位

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
事務局

2025年度 第19回スポーツ教材の提供先募集のご案内

平素より、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当財団では、スポーツに親しむ機会の充実を図り、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的として、2025年3月6日～5月12日の期間、スポーツ教材を継続的に活用いただける団体を募集し、抽選の上、合計120団体にタグラグビーセットまたはポッチャボールセットの無償提供を行います。

教材を継続的に活用していただくことにより、スポーツが苦手な子どもたちがスポーツの楽しさを知ったり、幼少期から体を動かすことに興味を持ったりすることによって、体力・運動能力の向上やスポーツ機会の充実につなげることを目指しています。

子どもたちがスポーツを楽しむ場において有効に活用いただきたく、保育園・幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、各種スポーツ団体等へ広くご案内いただけますよう、お願いいたします。

(当案内は、保育園・幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、各種スポーツ団体等へは直接送付しておりません。各団体にご案内いただく際には、添付の案内状をご利用ください。タグラグビーセットは小学生以下、ポッチャボールセットは小学生・中学生が対象となります。)

なお、「スポーツ教材の提供」についての詳細および申請方法につきましては、別紙の案内をご覧ください。

また、これまでの教材活用事例につきましては、当財団ホームページにて紹介しておりますので、ぜひご参照ください(<https://www.ymfs.jp/supply/report/>)。

この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)事務局 (担当:濱北)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地

■Tel:0538-32-9827 ■Fax:0538-32-1112 ■Home page:<https://www.ymfs.jp/>

2025年3月6日

学校長・園長・スポーツ団体等代表者 各位

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
事務局

2025年度 第19回スポーツ教材の提供先募集のご案内

平素より、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当財団では、スポーツに親しむ機会の充実を図り、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的として、2025年3月6日～5月12日の期間、スポーツ教材を継続的に活用いただける団体を募集し、抽選の上、合計120団体にラグビーセットまたはボッチャボールセットの無償提供を行います。

教材を継続的に活用していただくことにより、スポーツが苦手な子どもたちがスポーツの楽しさを知ったり、幼少期から体を動かすことに興味を持ったりすることによって、体力・運動能力の向上やスポーツ機会の充実につなげることを目指しています。

子どもたちがスポーツを楽しむ場において有効に活用いただきたく、添付の募集案内をご覧の上お申し込みください。

また、これまでの教材活用事例につきましては、当財団ホームページにて紹介しておりますので、ぜひご参照ください(<https://www.ymfs.jp/supply/report/>)。

以上、よろしくお願い致します。

この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)事務局 (担当: 濱北)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地

■Tel: 0538-32-9827 ■Fax: 0538-32-1112 ■Home page: <https://www.ymfs.jp/>

2025年3月6日

2025年度「第19回 スポーツ教材の提供」についてのご案内

ポッチャボールセットとタグラグビーセットを合計120団体に提供

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)は、2025年3月6日(木)～5月12日(月)、2025年度「第19回 スポーツ教材の提供」の募集を行います。

「スポーツ教材の提供」は、スポーツに親しむ機会の充実を図り、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に2007年度から開始しました。2025年度は教材を継続的に活用し、子どもたちにスポーツ機会を提供することを計画している団体に、ポッチャボールセットを60団体(小・中学生)、タグラグビーセットを60団体(小学生以下)に提供します(応募多数の場合は第三者による抽選)。

ポッチャは、年齢や障がいの有無にかかわらず、すべての人が協力し合い、競い合えるスポーツとして2020年度から採用。タグラグビーは、身体的接触がないため子どもたちが安心して楽しくプレイできるスポーツとして初回から提供しています。特に幼少期は身体の神経が急速に発達することから、継続して教材を活用し、身体を動かすことの楽しさを知り、スポーツを好きになってもらえることを願っています。

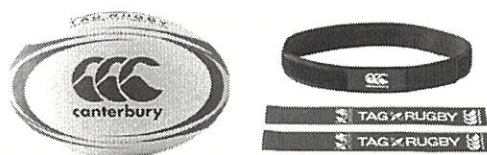
専用の申請フォーム(<https://www.ymfs.jp/supply/guideline/>)よりお申し込みください。



【提供教材】



ポッチャボールセット
(60 団体: 対象は小・中学生)



タグラグビーセット
(60 団体: 対象は小学生以下)

【教材活用事例】



ホームページにて教材活用報告でいただいた「アイデア」や「工夫」の一部をご紹介します。

<https://www.ymfs.jp/supply/report/>

※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当: 濱北)

www.ymfs.jp

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS)

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
TEL: 0538-32-9827 FAX: 0538-32-1112

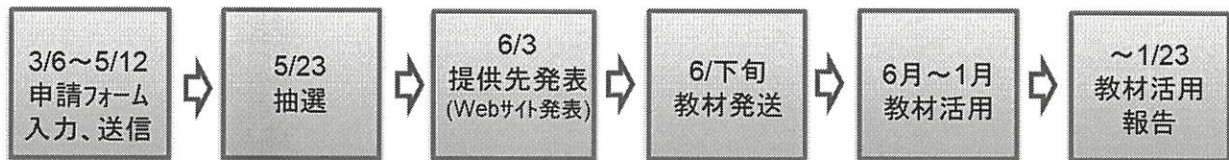
Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

2500 Shingai, Iwata, Shizuoka, 438-8501 Japan
Tel: +81 538 32 9827 Fax: +81 538 32 1112

2025年度「第19回 スポーツ教材の提供」募集要項

目的	スポーツに親しむ機会の充実を図り、心身ともに健全な子どもたちを育成する
募集期間	2025年3月6日(木)～5月12日(月)
対象団体	保育園・幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、児童クラブ、スポーツ少年団・クラブ・スクール等、スポーツに取り組む団体
応募条件	(1) WEB上での活用計画書等の提出(申請時) (2) 教材を継続的に活用して子どもたちにスポーツ機会を提供できる団体 (3) 活動の取材、および当財団ホームページで紹介が可能な団体 (4) WEB上での中間・最終報告書と活動写真の提出 ※報告書の提出期限:中間=2025年10月31日/最終=2026年1月23日 ※団体の指導者同士の情報共有の場として、各団体の報告書は相互にWEB上で閲覧できるよう開示します。 ※写真は当財団のホームページ等で使用する場合があります。各団体の基準に合わせた写真を提出してください。
提供教材と 使用対象者 (1)(2)のいずれか	(1) ボッチャボールセット 60団体(対象は小・中学生) ・ボッチャボール13個、審判具、収納バッグ (2) タグラグビーセット 60団体(対象は小学生以下) ・タグボール(4号球)3個+タグベルト(ジュニア)15組
申請方法	ホームページの「スポーツ教材の提供申請フォーム」(https://www.ymfs.jp/supply/guideline/)より
選考方法	書類審査後、5月23日(金)に第三者による厳正な抽選にて決定
結果通知	6月3日(火)17時 ホームページに抽選結果掲載 ※提供が決定した団体にはメールを送付
教材発送	6月下旬に発送予定

■申請から報告までのながれ



●以下に該当する場合は申請できません

- ・主な使用者が、タグラグビーセットは中学生以上、ボッチャボールセットは小学生、中学生以外の団体
- ・応募条件を満たしていない団体 ・個人での申請 ・同一団体からの複数申請
- ・過去に教材の提供を受けたにもかかわらず、活用報告が未提出の団体
- ・昨年度、教材の提供を受けた団体からの同一教材への申請

●確実に連絡可能なメールアドレスを記入してください

- ・申請後の連絡はメールにて行います。メールアドレスが間違っていると、当選連絡をお送りできません。
- ・申請受理後は、確認メールが自動的に送信されますので、必ず、常に連絡のとれるメールアドレスにしてください。

●教材提供後は、中間報告(10月31日まで)と、最終報告(2026年1月23日まで)の2回、必ず活用報告書と活動写真を提出してください

- ・活用報告書と活動写真は、当財団ホームページで使用する場合があります。

応募の詳細は:<https://www.ymfs.jp/supply/guideline/>



【教材活用事例】

山形県立鶴岡養護学校

報告者：茂木大地先生／教材：タグラグビーセット

Philosophy: 仲間たちとの絆を育む

基本的に小学部でのボール競技は、投げる、蹴る、カゴに入れるという個人競技とし、チーム競技を行うことは少ないそうです。その理由は体格差によるリスク、障害の実態によりルールの理解や技能の習得にばらつきがあるからです。しかし茂木先生は、子どもたちの卒業後を見据え、ゲーム性のあるスポーツを通じて仲間たちとの集団意識や友情意識を育む第一歩にしたいと、タグラグビーの導入を進めました。



Plan: めざせ、トライ！ ～タグラグビーを楽しもう～

小学部3・4年生の単元とし、転がしドッジボール5時間、タグラグビー5時間、合計10時間で計画。事前に独自ルールを作り教員で実践し改善を重ねて授業を制作。授業では、①教師の支援を受けながら、楽しくタグラグビーをする、②ボールを使った運動やゲームに親しみ、その楽しさや感じたことを表現する、③簡単なきまりを守り、教師や友達と安全に楽しくボールを使った運動やゲームをする を目標としました。



Do: 味方と対戦相手がいることを把握

最初はラグビーボールに慣れることからスタートし、ボールを使わない「タグ取りゲーム」、味方だけでボールを回してトライを目指すなど、基本を身につけました。続いて、子どもたちの実態に合わせた独自のルールにより、クラス対抗のタグラグビーを実施。子どもたちは、一緒にゴールを目指す「味方」がいること、タグを取る「対戦相手」がいることを意識できるように、常に言葉をかけ取り組みました。



Check: 攻めも守りも、好プレーの児童を全員で称賛

トライした子どもとチーム、タグを取った子どもとチームともに、やる気を維持し体を動かすことが楽しいと思ってもらえるよう勝敗に関係なく称賛したことで、みんなが嬉しそうなる表情を見せてくれました。称賛する心は子どもたちの中にも芽生え、仲間を認め、見学している子どもの中には“がんばれ！”と応援する様子もあり、集団における仲間との関わりも育まれています。



Action: 校内でいつでも使える、財産として残す

今回の授業内容は、学校でPDCAを回し成果だけでなく課題も確認。子どもたちの運動機会としてだけでなく、集団意識を醸成する機会としても改善しアレンジを加え、一つの財産(教材)として残していくそうです。

また系統的な学びとして、小学部での経験が中学部、高等部でのより専門的な技能向上に生きてくることもあると考えられており、鶴岡養護学校にタグラグビーが根付き、さまざまな効果を生み出すことが期待されます。



※本活用事例は一部を抜粋したものです。完全版はホームページにてご覧いただけます。

https://www.ymfs.jp/supply/report/case_27/